



■ ～白血球の仲間、好酸球～

白血球の仲間、好酸球

好酸球(コウサンキョウ)と読みます。血液細胞の白血球の仲間の1つです。血管の中には多種多様の細胞がふらついていて、人間の体を細菌、ウィルス、寄生虫、アレルギーなどの突然の攻撃、侵略から守っています。国に例えれば軍隊のようなものです。ですから軍隊を持っていない国家は、他国に容易に侵略され従属国となり、国民は自由と権利を奪われ人間らしい自由な生活が保障されなくなります。

白血球も同じように、その人、個人の中で軍隊のように警護にあたり、外敵からの攻撃、侵略を防御している役目を担っています。白血球の種類もたくさんありますが、今回は、あまり聞きなれないと思いますが好酸球について説明します。

好酸球は、普通、個人の中では白血球の色々な仲間のうち、100人数えるうち数人(数%)しかいません。この少ない数で一体何の役割を担っているのでしょうか？



それは、アレルギー、寄生虫などの疾患に敏感に対応していることです。アレルギーでは食物アレルギー、花粉アレルギー、動物アレルギーなど原因は区々です。このアレルギーにより体に発疹、痒み、発熱などが生じると好酸球が体を防御するため通常の数の5～6倍も数が増えます。

この数の増加は、血液像という白血球を染色して顕微鏡で見る検査で判明します。また、寄生虫に感染すると同様に好酸球も増加し、防御態勢を取ります。それと、喘息、気管支炎を持つ人では、発作時に好酸球が増加しますが、この場合は生体の防御機構とは違うようです。

しかしながら、寄生虫に関しては寄生虫もなかなか手強く抗原性(生体に抗体を作らせる部位で、抗体により致命傷を受ける部分)を致命傷とならない部分(頭部ではなく尾の方)に発現し、生体の認識を誤魔化して身を守っているのです。敵も然る者で兵隊から逃げる方法を習得しているのです。



担当:検査課長 稲川 和男